

殺処分ゼロ・チャレンジ推進助成事業助成申請書

応募用紙

2017年 3月 日

1. 活動企画テーマと基本情報について

(1) テーマ	若者と動物の共生事業 ー 困難を抱える若者と目指す「殺処分ゼロ」ー		
(2) 事業実施期間	2017年5月 ~2018年4月	(3) 助成申請額 (万円未満は切捨)	300万円
(4) 団体の名称 (法人格含む)	フリガナ	コンナンナワカモノトサツショブンスイシンイインカイ	
	名称	困難を抱える若者と殺処分ゼロ推進委員会	
(5) 代表者氏名	フリガナ	シュズイ トモコ	
	名称	守随 智子	
(6) 連絡先	住所	名古屋市中区金山二丁目16番22号 シュズイビル7階 アロマフォレスト内	
	電話・Fax	052-332-2556	
	HP	http://www.npo-famille.org/ (NPOファミリー)	
	email	info@aromaforest.jp	

2. 団体について

(1) 活動を通じて実現したいこと

本事業は、動物愛護団体のNPO法人ファミリー、再非行防止のNPO法人再非行防止サポートセンター愛知、ひきこもり支援のNPO法人若者自立支援塾ONESTEPの3団体連携で実施する事業です。

動物愛護団体NPO法人ファミリーのミッションは「殺処分ゼロ」。そして、ドイツのティアハイム(寄付による犬猫を収容する施設)に匹敵する施設を作ることにあります。

また、ひきこもりや非行など社会生活に困難を抱える若者は増加の一途をたどっており、税金を納め、国を支える担い手になるどころか、生活保護へ陥るなど、財政への逼迫は、火を見るより明らかであるため「新しい解決策の仕組みづくり」を急ぐ必要があると考えています。

本事業の要である「保護犬介在若者支援プログラム」を開発することで、困難を抱えた若者と保護犬のそれぞれの強みを相乗効果によってこの大きな二つの社会問題を解決できる事業を実施し、沢山の犬を殺処分から救うことができる。そして、超高齢化社会や少子化で、先行きが不透明な現代の日本で、引きこもりや非行少年と殺処分されてしまう捨て犬や野犬が、徐々に触れ合い、助け合い、幸せになっていく事業に、希望と愛に満ちた明るい未来を描くことになると確信しています。

(2) これまで達成・実現してきたこと

ONPO法人ファミリーユ

2012年8月設立 (<http://www.npo-famille.org>)

ペットは家族。東海地方のペットの「殺処分ゼロ」を目指し、名古屋市には働きかけが実り、ファミリーユが老犬の引き取りもはじめて「犬の殺処分がゼロ」を実現できる場所にまで来た。

2014年：老犬シェルター、2016年：保護猫カフェ「ヘミングウェイ」を開所

2012年-2016年 名古屋市愛護センターから引き出した犬猫を譲渡 犬112頭 猫232頭

ONPO法人再非行防止サポートセンター愛知：

2014年8月設立 (<http://saihikouboushi-aichi.jimdo.com>)

愛知県内に特化して、13歳から20歳までの少年を中心に、逮捕から社会自立まで一貫支援を行い、再非行を減らし笑顔を増やす活動にまい進中。法人設立2年50人の再非行防止を実現。2017年12月、出院後戻る家庭のない少年を受け入れる「自立準備ホーム」を開設。7室運営に至る。

ONPO法人若者自立支援塾ONESTEP

2017年2月法人化 (<http://kanjilog.com/kasamajun3/>)

2011年：国立岐阜大学卒業後、(株)さなる入社。塾の講師時にひきこもり・不登校に危機意識を持つ。

2014年：さなる退社。地域密着型若者活性化プロジェクト「Joyell」を仲間と立ち上げ、島民250人の過疎の島を若者の力で活性化する活動しカフェをオープン

現在は、佐久島において毎月短期合宿を繰り返し、若者のコミュニティの中で困難を抱えた若者が自立に向かうという独自のメソッドを構築し実践中

2017年：社会生活に困難を抱える若者が主体者となって運営する児童養護施設退所者のための自立援助ホームと若者シェアハウス事業を愛知県西尾市に開設準備中。